

人間関係の悩みから見つけた自分らしさ

宮崎市立赤江中学校 3年 伊^い福^{ふく}心^こ美^み

中学校生活を振り返ると、私は、人間関係でたくさん悩んできた。現在、生徒会長を務めている。そうすると、人との関わりが得意なのだろうと思われるかもしれない。しかし、実際は違う。それらの悩みから私を救ってくれたのは「2・6・2の法則」だ。

私は、生徒会活動やボランティア活動、そして、部活動に積極的に取り組んでいる。たくさんの人と関わる中で、多くのことを学んでいる。一方で、そこには、考え方や価値観の違いが必ずある。自分では、良かれと思って行動したことで相手にはそう受けとられなかったり、一生懸命頑張っても認めてもらえなかったりすることがある。

特に、部活動では、人間関係で大きく悩んだ時期があった。私は、部のためにできることを考え、努力した。しかし、思うように気持ちが伝わらず、周りとの距離を感じることもあった。「もっと頑張れば認めてもらえるはず」「みんなに好かれたい」とできない自分を責めた。

また、生徒会長として、学校を良くしたいという思いで活動しても、全員が賛成しているわけではないことがある。全員から賛同を得ようとしてもどうしても否定的な見方をする人もいる。私は、その度に落ち込み、どうしたら認めてもらえるのだろうと考えていた。

しかし、ある時、ネットでイタリアの経済学者パレートの「2・8の法則」の考え方から生まれた「2・6・2の法則」を知った。

これは、人が集まる場所では、何をしても約2割の人は自分を応援し、約6割の人は、どちらでもなく、残り約2割の人は、自分を否定的に見るものだという考え方だ。

私は、衝撃を受けた。それまでの私は、全員から好かれ、認められなければ自分はだめだと思い込んでいた。どれだけ優しい人でもどれだけ努力している人でも合う人と合わない人は必ずいる。それは、自分自身の努力不足ではなく、人それぞれの価値観が違うだけなのだ。

また、私は、これまで否定的な意見ばかりに目を向けていた。支えてくれる人がいるにも関わらず、少数の否定的な声に心を奪われていた。部活動でも生徒会活動でも、私を応援し、支えてくれる友達や先生方などの仲間がいたのだ。それなのに、私は、嫌われているかもしれないという不安ばかりを見ていた。

「2・6・2の法則」を知って、不思議なくらい心が軽くなった。以前は、周りの評価ばかりを気にしていた自分が本当に大切にしたいことに目を向けることができるようになった。相手を傷つける自分勝手な行動はもちろん許されない。自分ができる努力をした上で、理解してもらえないことがあれば、「そういう人もいる」と受け止められた。

人に好かれるためではなく、学校のため、仲間のため、自分が正しいと思うことのために行動していきたい。全員を満足させることが難しいからこそ、自分の信念と周りへの感謝を心に刻みたい。

3年生となった今、一つ一つの活動に目的をもって取り組むことができていると感じる。私だけでなく、誰にとっても、その人自身を理解し、応援してくれる人は、必ずいる。そして何より、自分自身が自分の味方でありたい。

私は、中学校で学んだ最も大切なことのひとつが、自分の見方を変えて物事を見ることだ。これから先も、困難にぶつかることはあるだろう。それでも、自分らしく挑戦し続けたい。そして、人との関わりの中で、成長し、私自身もだれかを応援できる存在になりたい。